

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 3 月 14 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271200679		
法人名	特定非営利活動法人 ハッピーネス福祉会		
事業所名	グループホーム琴の海		
所在地	〒859-3808 長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷 8 8 4 - 1		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 1 日	評価結果市町受理日	平成 23 年 3 月 18 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4271200679&SCD=320
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目 6 番 5 号
訪問調査日	平成 23 年 2 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな環境の中に木造平屋作りで近所の方などが来やすい場所にある。近所の方との交流も行い、行事等には積極的に参加して下さり協力関係が築けている。室内は杉の木を使い落ち着いた感じで、清潔感がある。リビングからみかん畑や中庭の花が見ることができ、季節感を味わえるように配慮している。家族の方や近所の方が気軽に来て頂けるように花などを飾り、玄関などを明るくしている。日々、皆様の健康維持に努め、脳の活性化の為に学習療法（読み・書き・計算）を取り入れ、スタッフと入所者様は毎日いきいき楽しく過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームは、自然に囲まれた静かな環境の中に建っており、木造平家作りの建物の周りには、木々や季節の花々が植栽されています。玄関を入ると花壇がある中庭が目に入り、開放的な感じを受けます。窓越しに季節を感じる事ができ、利用者も思い思いの場所でのんびり過ごされています。

ホームでは、家族に利用者の身体状況等についての月次の報告書を渡されており、報告書には利用者の写真が添付されるなど、施設長の家族への配慮がうかがえます。職員へはキャリアに応じた研修等を勧め、自らも研修を行うなどの指導力も発揮されています。職員からも強い信頼を受け、質の向上に向けて取り組まれています。

地域との関わりも日常的に自然な形で行われ、ボランティアなどの協力も得られています。また、家族会も設けられ、ホームと家族の意見交換の場にもなっています。

スタッフからは、「利用者にとっては、毎日が貴重なので、利用者と一緒に楽しい時間を過ごしていきたい」との声が聞かれました。

(別紙2-2)

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが、ホームの理念「共に喜び、共に悲しむ」を共有して目指すべきケアの実践に努めている。	「利用者に寄り添い、共に喜び共に悲しみながら支えていきたい」と、理念はホームの玄関に掲示され、職員間で共有しながら実践につなげられています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事（誕生会・敬老会・クリスマス会・バザー）などを通して、地域の方と交流を行っている。また農家の方からの野菜や果物の差し入れもある。中学校の生徒さんの職場体験学習の受け入れも行い地域、学校との交流も図っている。	日常的な交流で、地域の人との関係作りが行われています。昨年も地域の人の申し出によるホームのバザーへの協力が得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントや運営推進会議、火災時の避難訓練などを通じて、ホームのあり方や認知症の方への支援方法などを理解して頂けるよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を話すことで、運営推進委員の方々に理解して頂き、貴重な意見を頂くことで、より地域に密着したサービス向上に繋がっている。	当該会議には、役所や家族、地域の人などが参加され、利用者の状況や行事の報告、行政からの高齢者施設の現状説明など、情報や意見の交換が行われています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや福祉課の方と連絡を取り、協力関係を築いている。	運営推進会議や、諸手続で役所を訪問した際に、報告や相談等を行い、意見や助言等を得られています。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の方の人権を守り、身体拘束をしない方針でサービスを行っている。玄関は施錠しない。緊急やむを得ず身体拘束が必要な場合は、本人・家族等への十分な説明をし、同意を得ている。</p>	<p>身体拘束は行わないことを全職員が認識し、身体拘束のないケアに取り組まれています。やむを得ず拘束に繋がる行為が必要な場合は、本人や家族に説明し、同意を得ることとされています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の方からスタッフがつかねられたり、噛まれたりする事があるが、スタッフは利用者のその時の状況を理解することで、工夫しながら対処しているので感情的にならず人間関係も悪化しないで済んでいる。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>カンファレンスや勉強会を行い制度を理解している。成年後見制度を利用されている方が一名おられ、成年後見人の方との連携を通して、本人がよりよく生活されるような協力関係がある。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、又は、法改正時の際は家族の方に説明をし、了解して頂けるように努めている。</p>	/	/
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設置しており、家族の方の意見等を聞き反映させている。また来所された折り等にもお話を聞きし反映させている。</p>	<p>家族会が設けられ、家族の意見などを得る機会につなげられています。又、面会時に、要望等を書いて頂くノートが用意され、得られた意見や要望は、運営に活かされています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回のカンファレンスで勤務の希望や人員等、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映されている。</p>	<p>気づきや意見は、その都度、ホーム長や管理者に伝え、話し合いの上、運営等に反映されています。利用者の重度化に伴い、排泄や入浴介助体制を充実された事例なども持たれています。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務年数や経験を活かした役割を持って仕事をしている。給与は毎年少しずつ昇給している。経験年数から資格修得を目標にスタッフ同士で学んでいる。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数や能力に応じて、施設外の研修も受講してもらっている。また、施設では月一回学習会を開き、スタッフは一人ずつテーマを決め、講義や演習など行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>月に一回、グループホーム交流会を行い、専門職同士が集まり意見交換など行っている。また他の施設見学等を行い交流を深めている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>介護計画書を理解して、細やかに声掛け傾聴することで、アセスメントを行う。カンファレンスで本人を理解すると共に、その方の要望に合った援助方法を検討、実践する。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者家族からアセスメントを行い、モニタリング表、施設サービス計画書を作成し、サービスに対する十分な理解と納得、同意を得て相互理解に基づく信頼関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者、家族からのアセスメントに基づき個別のニーズの把握、理解に努めケアプランを作成実践することでQOLの向上に努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の人権を尊重し、利用者様は職員に励ましや感謝の言葉を頂き、日々支え支えられながら良い関係を築いている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各イベントの中でも誕生会は本人と御家族が絆を深める良い機会である為、誕生日を家族と共に祝うことにしている。また、毎月の生活を記録した報告書を家族に送り、交流を図っている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に一～二回、利用者の友人の方が季節の花々を活けて下さることで生活に潤いがある。週に三回の学習療法の指導サポーターにも地域の方にお手伝いして頂くなど支援に努めている。	地元の人に、花を生けて頂いたり、学習療法の指導を手伝って頂いたり馴染みの関係の継続を支援されています。利用者は、その日を楽しみに待たれています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日、その時の感情の変化を観察し、利用者同士が良い関係を保てるよう気を配り支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人との面会や家族の方と連絡を取り、現在の状況を尋ねて必要に応じて相談や支援に努め関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中で、その方の思いや要望を把握している。願いを家族に伝え、実現できるように働きかけている。	日々関わりながら、一人ひとりを把握されており、意向の把握が難しい方でも、表情の変化や、家族からの情報をもとに意向に添えるよう支援されています。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時のモニタリング表や施設サービス計画書を把握し、ケアプラン及びケース記録等により経過の把握に努めている。</p>			
25	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>その方の身体レベルに応じた運動や作業を取り入れることで、現状の把握に努めている。</p>			
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、医療機関の意見等を合わせた施設サービス計画表が作成され、カンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を実施している。</p>	<p>計画は、本人や家族の要望、受診記録などを勘案しながら立案され、カンファレンスでの話し合いを経て本人や家族の同意が得られています。又、随時に見直す場合も同様の手順とされています。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>スタッフは日々の様子を介護記録に記入している。状態の変化があれば、ホーム長やスタッフ間で検討をし、必要があればカンファレンスを実施し話し合い、家族にも連絡を入れる。</p>			
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>機能の回復を願う御家族の希望で、リハビリ訓練の為に病院へ通わせたいと、週三回、御家族とホーム側で送迎を行った。また、経管栄養の状態でも受け入れている。看取りも行っている。</p>			
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事（敬老会、蔵本浮立）等に参加させて頂いています。昨年より学習療法（読み、書き、計算）の指導にボランティアで地域の方に来て頂いています。</p>			

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の希望を聞き、担当医を決めている。月一～二回の往診をして頂いている。事前に連絡を入れ、往診時スムーズにいくよう医療側と連携をとっている。</p>	<p>かかりつけ医は、利用者等の希望により選択され、協力医の定期的な往診など、適切な医療を受けられるように努められています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師はスタッフからの情報、観察等により本人の健康管理を行っている。状態観察により主治医の診察が必要な時は病院受診し、治療を受けて頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>本人の入院が必要となった場合は家族と連絡し医師の状態説明を聞いて頂く。入院の準備はホームで行い、入院生活に支障がないよう配慮している。ホームでの本人の状況を病院関係者に説明し、本人及び病院関係者が困らないように説明している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>日頃から家族の方と終末期について話をしている。家族の希望を受け、ホームで看取りを行うことがあるが、看取りは家族の協力なしでは行えないので、一緒に行うことで可能である旨を説明している。</p>	<p>重度化対応等についてのホームの方針は、利用開始時にパンフレット等を用いて家族等に説明されています。また、今後の変化に備え、家族の協力などについて、理解が得られるよう努められています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故が発生した場合は、ホーム長に連絡し、利用者を安全・安楽な体位にし、初期対応を行うようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災を想定して避難訓練を行い、地域の方々にも協力して頂いている。また地域の方々には、ホームを見学して頂きホーム内部を把握して頂いている。</p>	<p>消防署立ち会いの下、地域の人々からの協力を得ながら、訓練が行われています。また、災害発生時に備え、水や食料品、ラジオ等の備品が準備されています。</p>	<p>火災以外の災害も想定し、対策を検討されることを期待します。</p>

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を持って言葉掛けや対応を行っている。	利用者一人ひとりに、丁寧でさりげない声かけをされているスタッフの様子がうかがえました。また、個人情報保護に関する研修等も行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や態度などを見ながら、声掛け・ジェスチャーなどを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕事優先ではなく、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の希望がある方は御自分で好みの服を選んで頂くこともあります。髪型などは本人や家族の希望を聞き整容し、その方らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立はその方の好み、栄養バランスを考え季節の物を取り入れた献立を作成している。また一人ひとりの咀嚼、嚥下機能、歯の状態を考え食べやすい形態にし摂取して頂くよう努めている。	利用者の声を参考に、献立は栄養士が作成されています。利用者の食事作りへの参加など、できる範囲での協働も見られます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定やケース記録により利用者の体調管理に努め、一般状態を見て、食べる量、水分量など考えて支援している。		

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。うがいにはお茶を使用し、口の殺菌・口臭予防に努めている。また歯磨きには、人と環境に優しい成分で飲み込んでも人体に害がないものを使用している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。また、必要に応じては居室でも対応できるようポータブルトイレを設置し対応している。</p>	<p>個々の排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に応じた対応が行われています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の豊富な食品、乳製品（牛乳、ヨーグルト）、オリゴ糖や腸蠕動を促す食品を毎日の献立に取り入れている。運動や腹部マッサージも行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>予定を立て入浴して頂いているが、本人の希望で入りたくない等の場合は、変更している。湯加減などは気持ち良く入れる要件なので順番も考慮している。ゆっくり本人のペースや様子を観ながら進めるようにしている。</p>	<p>週3日の入浴日が設定されていますが、希望に柔軟に応じることも可能とされています。湯加減などの好みへの対応やパブルバスの導入など、利用者の楽しみにつなげられています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>食後は特に眠くなられる方が多いので、声掛けにより、お尋ねし居室やリビングのソファで休んで頂いている。また、テレビを見て過ごされる方には、座り心地、安楽を配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>殆どの方が薬を服用されている。なぜその薬を服用されているのか、薬の目的、作用、副作用等を把握し服薬支援を行い経過観察に努めている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとり、出来られる事を活かしたお手伝いをして頂いている。本人の好みで新聞・本・雑誌など見ておられる。ホーム書棚にも本・雑誌を備えている。歌がお好きな方には、音楽の提供やみんなで歌を歌ったりして楽しんで頂いている。ホーム周辺の散歩にも出かけ気分転換も図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気候のよい日は戸外へ散歩に出かけている。GPS機能付の器具を準備しており、一人での外出も実施されている。</p>	<p>体力の低下などにより、自ら外出を希望される利用者は減っているとのことですが、近隣への散歩などは日常的に行われています。又、外出についての家族の協力も得られています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の能力に応じて、お金を持って頂いている。殆ど使われることはないが、お金がないと不安に思われることがある。お祭りや外出などの時は、買い物を楽しんで頂く。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話に出る事のできられる方には、お話をして頂いている。年賀状等には文面以外の名前を可能な限り書いて頂き出している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングでは懐かしい童謡などを流し、照明もやわらかい灯りで、目から入る刺激をおさえ居心地の良い空間である。また、いつでも中庭の花々が見渡せホーム内は季節の花が活けられ、手創りカレンダー等で季節感を取り入れる工夫をしている。また、地域の方が描かれた、花や風景画などの展示もしている。</p>	<p>共用空間には季節の花が生けられ、絵画や写真、手作りの品などが飾られており、家庭的な雰囲気を感じられます。利用者は、日当たりの良いリビングで、思い思いに過ごされていました。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓の座席は、気の合う方、合わない方を考慮して決めている。また、リビングのソファの位置も一人一人がくつろげるように配慮し工夫している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた衣服、布団類を持って来て頂いている。仏様等その方が大切にされている物も居室に持ち込まれ、お供えをされていた。居室には誕生会の写真を貼り、御家族や楽しい思い出の写真がいつでもご覧になれるよう明るい雰囲気になっている。	居室には、使い慣れた家具などが持ち込まれており、個性が感じられます。入口には表札の他、利用者の写真が掲示され、分かりやすさへの配慮もうかがえます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を考え、椅子やベッドの種類を変えている。また、夜間のトイレが困らないようにポータブルトイレを利用して頂いている。夜間の転倒落下が気になる方にはマットレス等を敷き、身体拘束ゼロを目指す工夫をしている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない